「ベニズワイ(上)資源管理」 漁業者が回復に挑戦

漁獲限度量制を導入

ベニズワイは水深330～2,720mの海底に生息する寒海・深海性のカニである。雄で甲幅(甲羅の幅)16cm、雌で8cmに成長する。昭和37年に魚津市の漁業者浜多虎松氏が刺し網に代わるかご漁法を考案してから、この漁法が急速に全国に普及し、ベニズワイは現在かご漁法のみで漁獲されている。

ベニズワイ漁では、雌及び甲幅9cm以下の雄は周年漁獲禁止、6～8月の間禁漁のほか、かごの大きさと数、網目の大きさ、操業区域、漁獲量の報告など操業に関する規制が富山県漁業調整規則等で定められている。

かご漁法はえさの誘集効果によって漁獲効率が良く、起伏のある地形や深海でも操業が可能などの利点がある反面、乱獲を招きやすい漁法でもある。

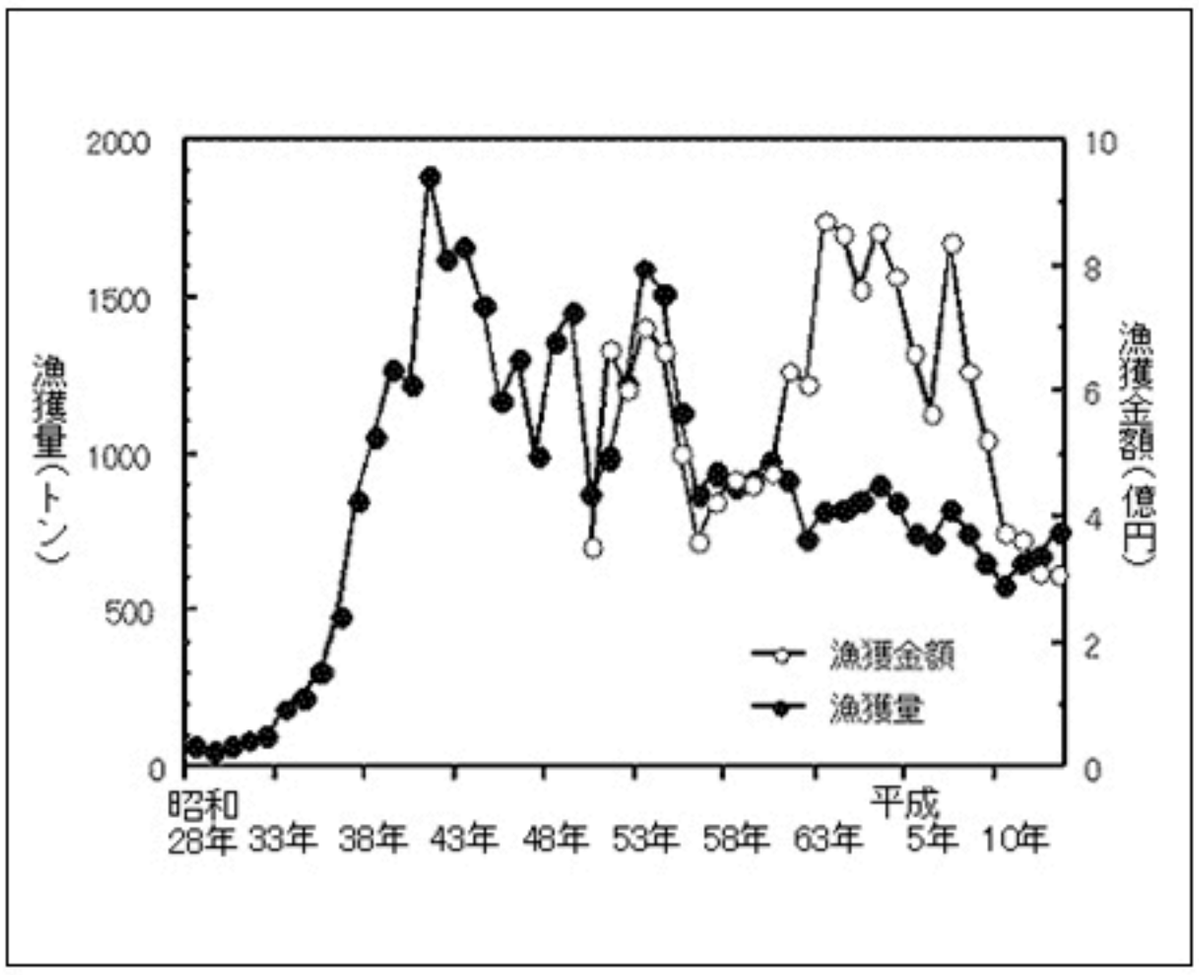
漁船の近代化とともに漁場が拡大し、60隻を超える漁船の操業により昭和41年には1,890トンの最高漁獲量に達した。その後、漁獲量は減少傾向に転じ、着業する隻数も減少した。平成13年は富山湾とその沖合海域で18隻が操業し、漁獲量は776トンになっている。

ベニズワイ資源の減少に伴い、資源水準に見合った適正な管理方法を確立するため、水産試験場では漁獲実態を調べるとともに資源生物調査を実施している。

それらを基に、成長途中の小さな個体が逃げ出せる脱出口のかごへの設置や、休漁期間の拡大、操業かご数の削減、禁漁区域の設定、漁獲限度量制の導入などの措置を検討した結果、漁獲限度量制の導入を決め、上限に達する前に操業を止めることで漁業者間の合意が得られた。

漁獲限度量は800トン、平成11年9月の漁期から漁業者の自主的な取組みで実施された。

水温が0℃近い深海に生息するベニズワイは、寿命が長く、成長も遅いと考えられるので、資源が回復するには時間がかかるが、富山湾の味覚ベニズワイを持続的に利用しようとする漁業者の挑戦が始まっている。（高松賢二郎）



富山県におけるベニズワイの漁獲量と漁獲金額の推移

秋になると浜を活気づかせるベニズワイガニ＝平成14年9月、新湊漁港